

北部東地域包括支援センターとして 取り組んだ「地域課題」

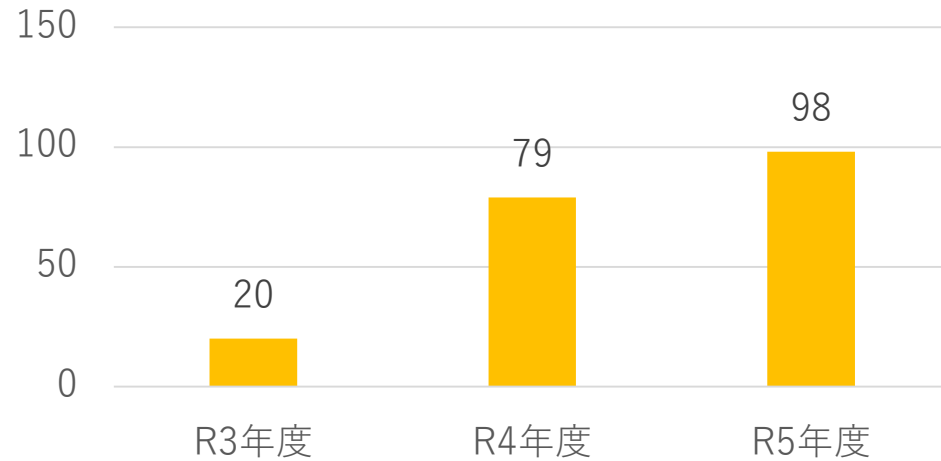
資料 2 - 1

「認知症になっても大丈夫」 と言いあえる地域へ

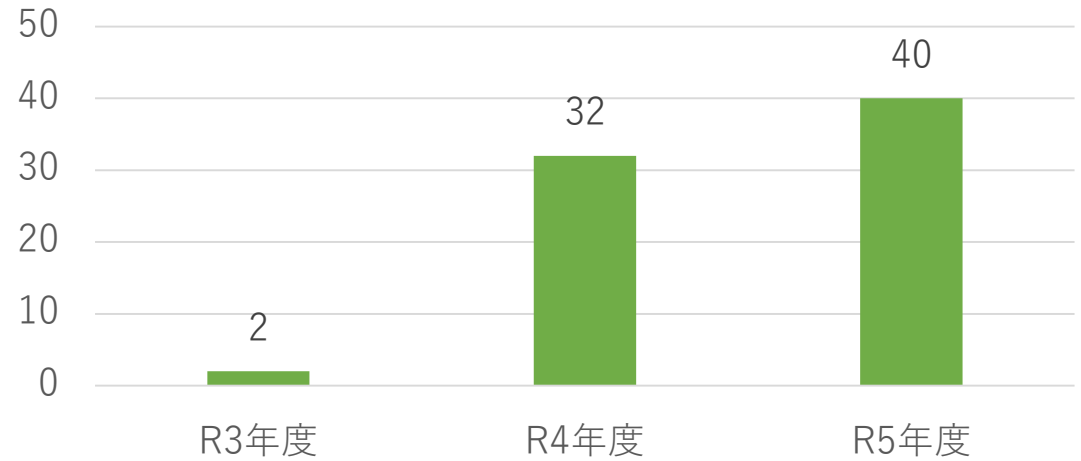
桑名市北部東地域包括支援センター
担当地区：大和・深谷・長島

北部東包括の オレンジカフェ（認知症カフェ）の現状と課題

オレンジカフェ 参加延べ人数



オレンジカフェ サポーター延べ人数



課題

- 認知症の相談件数（年間のべ約1700件）が増える中で、認知症の方の活躍できる場が少ない。もっと地域住民の皆さんと一緒に取り組みたい
 - 「認知症になったら今まで通りの生活ができない」と、地域の方の声があがる
- 認知症基本法に基づいて、共生社会の実現が必要

取り組みと「実り」 ～住民力を活かした助け合い～

始まりは

サポーターが大活躍する
参加者主体のオレンジカフェ

仲間をつくった

認知症になっても自分の気持ちを話せる場
ファッションショー・クリスマス会

もっと学ぼう

サポーターが一步踏み出すための学びの場
認知症サポーター養成講座

もうひとつの輪

共に励まし助け合う
認知症介護者家族のつどい

始まりは

サポーターが大活躍する 参加者主体のオレンジカフェ

経緯

- ・運営主体は包括で、参加者は受動的だった
- ➡包括、サポーターが一体となって、認知症の方
- ・自ら発信できる場にしたい
- ➡持続可能なオレンジカフェにしたい

取り組み

- ・サポーター主体で、認知症の方もその家族も誰もが楽しいと思える内容の工夫と居場所づくりを企画

効果

- ・サポーターが中心となって企画・運営
- ・回数を重ねるごとにサポーターのスキルアップ！
- ・専門職がいることで、認知症の方も家族も安心して参加できる場ができた

オレンジ
カフェの様子

うまく塗れた！



今日はこれをやります！



サポーターがゲームの進行をしています

仲間で作った

認知症になっても自分の気持ちを話せる場 ファッションショー・クリスマス会

経緯

- ・認知症の方が本人発信できる場をつくりたい
- ・みんなが楽しめるイベントを企画したい

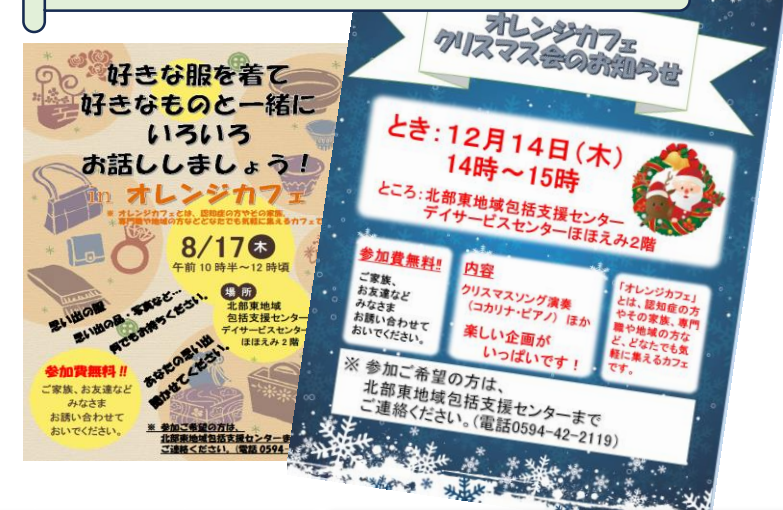
取り組み

- ・サポーターが発案し、中心となり企画した
- ・認知症の方が好きな衣装を選びランウェイを歩き、自分の気持ちを堂々と話した
- ・認知症の方とサポーターそれぞれが役割を担った

効果

- ・認知症の方が、自分の気持ちを話せる場ができた
- ・サポーターの気づきや学びに繋がった
- ・参加者同士のつながりが強くなり、更なる人のつながりが生まれた

サポーターお手製 オリジナルポスター



ファッションショー



クリスマス会

もっと
学ぼう

サポーターが一步踏み出すための学びの場 認知症サポーター養成講座

経緯

- ・サポーターから認知症についてもっと学びたいとの声が出る
- ・お寺の方でもあるサポーターから、「お寺を活用してほしい」と申し出がある

取り組み

- ・お寺とマッチングし、認知症サポーター養成講座を開催できた
- ・お寺の方がキャラバンメイト(講師)として活躍できた

効果

- ・サポーターや家族の認知症に対する知識が更に深まり、対応力が向上した
- ・受講者の意識が高まった結果、地域で課題のある方を発見し、包括への相談へとつながった



地元のお寺にて、受講している様子

もうひとつ の輪

共に励まし助け合う 認知症介護者家族のつどい

経緯

- ・身近なところで認知症介護者の方が思いを打ち明ける場がなかった
- ・認知症サポーター養成講座に続き、お寺の方からの場所の提供

取り組み

- ・介護を一人で抱え込んでいる家族を中心に声をかけた
- ・お寺の講堂を借りて、家族のつどいを開催。認知症介護の思いを話すことができた

効果

- ・お寺という身近なところで、新たなつどいの場として開拓できた
- ・悩みや思いを打ち明ける機会になり、お互いを助け合う気持ちが高まった
- ・介護者家族を支え合う人達の輪ができた



日時 令和5年12月8日（金）16時～17時
場所

対象 認知症の方を介護している家族
内容 茶話会
参加費 無料
問合せ 桑名市北部東地域包括支援センター
☎0594-42-2119



なぜここで？

お寺を活用した効果



お寺の方

昔からお寺は人が集まる場所であり、寺子屋・かけこみ寺など、地域を支える場所、社会的困窮者の救済の拠点でもあったと言われています



参加者

「普段なら他人には話せないことも、ここでは話せた」
「家では不安になることもあるけれど、落ち着いた雰囲気の中で話ができ、気持ちがすっきりした」



お寺

地域にたくさんあるお寺が新たなつどいの場となり
つながりを生み出すことができる

総括

①人とのつながりから**新たなつながり**が生まれる仕組みづくり

②地域住民の声を拾い上げ、**持続可能な地域づくり**への発展

③誰もが役割を持ち輝ける、**共生社会の実現**



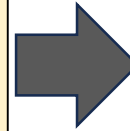
2040年を見据えて

2020年:桑名市 高齢化率26.8%

老年人口(65歳以上):37,083人

生産年齢人口(15歳~64歳):81,466人

年少人口(0歳~14歳):17,826人



2040年:桑名市(予測) 高齢化率34%

老年人口(65歳以上):42,183人

生産年齢人口(15歳~64歳):66,750人

年少人口(0歳~14歳):13,269人

2040年、高齢者人口の増加に伴い、現役世代(担い手)が減少。より深刻な介護・医療人材の不足が発生

私たちは、認知症の方やその家族を取り巻く、**元気なサポーターを増やしていくことも大切**に思っています

サポーター同士の交流やつながりも強くなっており、その方たちが、**年齢を重ねてもつながり続けていくこと**、互助のつながりを維持できていくことも大切と感じています

「次の世代を意識したつながり」



認知症講演会の様子



オレンジカフェ



認知症声かけ訓練

ご清聴ありがとうございました



図書館展示



認知症サポーター養成講座